

「いのち」の大切さについて

校長 安藤 徹



神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念を広めていくため、平成 29 年から、津久井やまゆり園事件が発生した 7 月 26 日を含む週の、月曜日から日曜日までの 1 週間を「ともに生きる社会かながわ推進週間」として定め、今年 は 7 月 25 日（月）から昨日 7 月 31 日（日）までが推進週間でした。



思い返せば今から 6 年前の平成 28 年 7 月 26 日、県立の障がい者支援施設「津久井やまゆり園」において 19 人が死亡し、27 人が負傷するという、大変痛ましい戦後最悪の事件が発生しました。この事件は、障がい者に対する偏見や差別的思考から引き起こされたと伝えられ、障がい者やそのご家族のみならず、多くの人に、言いようもない衝撃と不安を与えました。障がい者自身も障がい者と生活をともにする私たちのような立場の者もあの事件が起こる前からずっと「ともに生きる社会」の実現をめざしてきました。そうした中であのような事件が発生したことは、大きな悲しみと強い怒りを感じないではいられません。あのような事件が二度と繰り返されないよう、そして事件が風化しないように、多くの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、「ともに生きる社会かながわ憲章」というメッセージが平成 28 年 10 月に定められたのです。

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

あらためてこのメッセージの中で特に私たちが忘れてはいけないことは「いのち」を大切にすることだと思います。1 学期の終業式の中でも私はこんな話をしました。

みなさんには、それぞれにお父さんとお母さんからもらった大事な「いのち」があります。では「いのち」を大切にすることは、どういうことでしょうか？

私は「いのちを大切にすること」とは、「自分を大切にすること」として、「友だちや家族など、自分以外のすべての人を大切にすること」として、「人は生まれて、一生懸命に生きて、誰にでもいつかは「いのち」が終わる、つまり死ぬ時がやってきます。そのかぎりある時間をせいっぱいがんばることが「自分を大切にすること」につながるのだと考えています。

そして人は一人では生きてはいけません。ほかの人とかかわることで、楽しいこともいやなこともあります。でも、どんな時も「思いやりの心」をもち、楽しく、仲良く、気持ちよく生活することが、周りの人のいのちを大切にすることにつながります。みなさんにも自分のことだけでなく困っている人にも目を向けて、自分がされてうれしいことを人にしてあげられる人になってほしいと思っています。

令和 4 年 8 月 1 日